

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400194		
法人名	医療法人 親理会		
事業所名	グループホーム明日		
所在地	愛知県半田市郷中町二丁目七番地		
自己評価作成日	平成30年12月 1日	評価結果市町村受理日	平成31年 4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2392400194-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成30年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外に出る機会が少ないので、レクリエーションとして、ギター演奏会を行って、昔ながらの曲やヒット曲など、覚えている歌をうたって楽しめる事を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は人員配置の課題から、2ユニットのグループホームを1ユニットに縮小して運営している。利用者は他施設へ移行し、その人選にも誠意を持った対応に努めた。
この1年は、運営においても支援においても現状維持に努め、11月に人事異動で管理者交代があったり、職員の入退職が続いたり、気ぜわしい状況の中でも、利用者の安全第一に支援提供を実践している。事業所都合で、これ以上に利用者に迷惑をかける事だけは避けなければならないという信念の下、日々利用者の楽しみを考え、職員のできる精いっぱい支援を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あ…あきらめずにし…信念をもってた…たくましくの事業所理念を事務所に掲げ、全スタッフが共有し実践を心がけている。	ホーム理念を受け、開設当初から独自のホーム理念を掲げて支援実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアなどの訪問行事を定期的に行なっている。 買い物、喫茶店等の外出をし、地域の方とふれあいの場を設けている。	地域ボランティアの受け入れや学生の実習の受け入れ等で、地域の外部者との交流を図っている。福祉大学の実習生がそのままアルバイトで残ってくれる事例もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月「認知症カフェ」を開催。 地域の方々へ「認知症の理解」を目的として企画をご用意したり、実際に悩んでいる方々に対して相談を受けたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームからの発信だけにならないよう、色々な意見をもらうようにしている。	年6回の会議を開催している。市担当者や家族の参加を得て、ホームの運営報告を基に意見交換を行っている。家族からも多くの意見を貰い、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、実情を伝えている。また、市町村主催で開催される会議等に積極的に出席するようにしている。	市の担当部署とは、運営に関する相談や報告を通じ、適切に連携している。今年度、1ユニットにならざるを得ない状況下にも、密に連絡を取り、助言・指導を仰いだ。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が与える影響について話し、家族からの要望があった際もしない事を伝えリスクについてもきちんと説明している。	委員会設置には至っていないが、毎月法人3グループホームが合同で研修会を開催し、身体拘束についても勉強会の位置付けがある。職員には正しい知識と理解を周知している。	介護保険法の定める委員会設置、委員会開催の仕組みづくりが待たれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を行なっている。新入職員に対しどのようなことが虐待になるか等指導する。管理者・リーダーから全スタッフに向けて「虐待防止」の声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護」や「プライバシー保護」「成年後見制度」について、自主勉強会を定期的に行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	医療法人のグループホームでも医療行為については行なえない事をしっかり説明し、どのような時は退居になるか話している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には来所時や運営推進会議の時に常に声を掛け何でも言ってもらえるような雰囲気作りには留意している。	運営推進会議参加の機会に、外部者に意見表出ができる機会を作っている。家族の意見や提案については個別に対応し、内容を真摯に受け止めて対応している。今年度の1ユニット一時閉鎖の件にも、貴重な意見をいただいている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の中でも職員の意見や提案を聞いて反映している。	毎日の申し送り、毎月の勉強会等の機会に職員意見や提案を聴取している。現在のホームの状況下では、管理者を交えた話し合いの機会設定が難しく、運営者への伝達も同様の状況であることが否めない。	職場環境整備が急務であり、離職予防も視野に入れた対応の検討が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定期的な往診があるため、職員の対応や入居者の状態、ホーム内の状況を把握し、職員の向上心につながる各種整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、定期的に外部研修への参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	見学に伺い、施設の良いところを聞き参考にさせてもらっている。今後も増やしていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず事前に本人に会いお話しし心身の状況、思いに向き合い入居当日は面会した職員がいるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話を聞き何をホームで求めているのか、対応可能なのか事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聞いたうえで状況を確認し、必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが協力し合い、和やかに生活できる場面作りを心掛けている。お手伝いをお願いしたり、できる事はご自身で行なってもらうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態を報告や相談しご家族様と共有している。月一で家族通信を配信している。訪問された際は最近の様子をお話しし共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけでなく、本人の兄弟の方の訪問がある。なじみの場所へは行けていない。生活歴アンケートを家族の方へ記入して頂いたのがなじみの場所の把握が出来たため、実行していく。	地域からの利用者は、友人や知人の来訪があり、関係を継続できている。食べ物の差し入れを、職員が知らずにいて、後で驚くというエピソードもある。また、ホームでの新しい馴染みづくりにも取り組み、利用者が生き活きと活動できるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく過ごせる場面作りや関係がうまくいくよう職員が調整役となるよう支援している。話の合う方を見つけ席を決めているが、同じ人ばかりにならないようレク時は席を代わってもらう等配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他に移られても訪問し関係性を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から情報を得ることもあるが、困難な時は関わり合いの中から得よう心がけている。話しやすい雰囲気を作り何でも話し合える関係をつくるよう努力している。	日常の中で、利用者の思いの把握に努めている。職員毎に把握した内容を、毎日行う申し送りでも共有している。聴き取った内容は職員間で検討し、実現に向けて取り組むように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なるべく詳しく聞き取るようにしているが、本人のプライバシーの配慮も忘れないようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人のできる事を職員がしてしまわないよう、できる事があれば職員間で共有し行なってもらおうようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議を月一で開催し、職員間で個人について話し合い介護の統一をはかっている。	毎月のモニタリングを実施し、利用者の状況変化や支援内容の検討を行っている。介護計画は基本的に半年ごとに更新している。更新時には、サービス担当者会議を開催し、本人と家族の意向重視の介護計画を立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づくよう記載をしている。水分・排泄・食事量についても漏れの無いようにしている。その方がどのような様子で参加されていたか詳しく記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	困っていることなどがあれば知恵を出し合っ て柔軟な対応をする。うまくいかなければ、 何度も意見を出し合い話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園にお邪魔して児童と交流したり、近くのお祭りで山車に乗っている方に手を振ったり、山車祭りを見に行ったりし地域の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームから近くに先生がいるため体調が悪いとすぐに対応して下さる。家族様が疑問に思われている事は、先生と話し合いをされている。	母体クリニックの院長の月2回往診を支援している。また、医療連携の看護師の週1回の訪問で、利用者の健康管理を行い、医師と連携して、早期に適切な医療につなげている。母体が医療法人であることが、本人と家族の安心になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度見え、相談や助言を頂ける。またかかりつけ医に報告して下さり早い対応が可能となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は頻回にお見舞いに行き早期に退院できるよう家族、看護師、ドクターと連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で家族の意見を聞き、会議で対応について話し合いをしている。その人に合った支援を提供している。	クリニック院長の協力もあり、本人と家族の意向に沿った支援ができる体制がある。本人の状態変化の都度話し合いを重ね方針を決定し、本人にとって最善の方法が選択できるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応の仕方や訓練を勉強会でやっている。緊急時に備え、マニュアルを見て行えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、昼夜想定避難訓練・消火器の使い方などの訓練を実施している。新入職員には必ず参加して頂き当施設の災害対策を学んでもらっている。	年2回の避難訓練を実施している。11月の訓練には消防署の立ち会いがあり、避難経路と避難方法の指導を受けている。飲料水の備蓄も進み、高い意識で有事に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげないケアを心掛けて、自己決定しやすい声掛けをするようにしている。	目線を合わせ、優しい声掛けを心掛けている。接遇に関しては勉強会でも取り上げ、利用者に対する適切な対応方法を指導している。年上の利用者を敬い、お世話をさせていただく精神の共有に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声掛けをし自己決定できる機会を作っている。迷っている際は助言し決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、ケアを心がけ調子を見ながら過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で髪をセットされたり、ひげの伸びている男性利用者さんに対し声をかけ行なってもらっている。剃り残しは介助させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に合った形状での提供をしている。誤嚥の危険性の高い利用者さんに対しては横に付き添い見守りを強化している。	現在は、職員が買い物に出かけ、食材を補充している。食事担当の職員は、「あるもので作る」家庭料理を工夫し提供している。献立や調理方法を利用者に教えてもらったり、盛り付けや配膳、片付け等を利用者に手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事摂取量を確認し水分が少ない時は、その方の好きなもので摂って頂いている。脱水にならないよう、その方の水分の飲める時間帯を把握し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行ない、磨き残しのある方は介助させて頂いている。義歯は毎晩薬品につけ清潔にしている。拒否のみられる方には、うがいだけでもしてもらえよう声かけ行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し長時間行っていない時は声かけし誘導、トイレで排泄できるよう支援している。	現在は車椅子利用者1名が介助を要するが、8名はほぼ自立の状態である。様子観察を徹底し、適切に声掛けを行いながら、状態の現状維持を目指して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、オリゴ糖などで自然排便ができるよう購入機会を多くしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否の強い時は、時間をずらしたり好きな曲を流したりし気持ち良くはいる雰囲気作りをしている。それでも拒否されてしまう時は日にちをずらし対応している。	現在は、入浴支援もほぼ自立で、一部介助と見守り支援の対応が主になっている。拒否のある利用者もおられ、声かけに工夫し、入浴剤の工夫等、あの手この手で対応し、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせた時間に就寝して頂き、寝つきが悪ければ眠くなるまで話をしたり、ゆっくり過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲む前に他職員にもう一度確認してもらってから本人にも名前、日にちの確認をし服用して頂いている。最後に飲み残しがないか2名以上で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割りをみつけて頂き、感謝の気持ちを伝えやる気を引き出している。その人の好きな事を取り入れ作品にしたり、その場所へ出かけたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所を散歩したり、畑に野菜を取りに行ったりしている。日によっては喫茶店へ出かけコーヒーを飲みゆっくり過ごして頂いている。職員と共に買い物に出かけ、お客さんと話をしたりしている。	現在は職員配置の課題から、外出が難しくなっている。本人ばかりではなく、家族からも要望があるが、人間的に難しい状況が否めず、家族協力にご理解をいただいている。ホーム都合になることを避け、テラスや窓際まで移動して外気浴と日光浴を支援し、気分転換になるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして家族からお金を預かっており、外出支援時払うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は家族様から止められている所もあるため手紙などで連絡できるよう支援している。連絡しても大丈夫な家族様には連絡させて頂き会いにきてくださる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁や柱に装飾をし、季節が感じられるようにしている。装飾、カレンダーは利用者様と一緒に作っている。派手にならないよう落ち着いた雰囲気になるように努めている。	掃除は職員が行い、清潔保持に努めている。季節の飾り付けや手作りのカレンダーを掲示し、リビングでも季節や月日が分かるように工夫している。施設的な雰囲気を避けるため、家具や調度品は家庭的な物品を配置し、くつろげる、おちついた空間を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースでくつろいでいる方や話好きな方はテーブルで話をしていたり、個々で楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの品など持ち込んで頂くよう話ではいるが新しい物を購入して下さる家族の方が多いので都度説明をしていく。	入居時に馴染みの物品の持ち込みを依頼し、環境変化の弊害を説明するも、新品を持ち込むケースが多く、徐々に改善を図っている。持ち込んだ家具や衣服等を、本人と話し合いながら、使いやすく、暮らしやすいように配置・整理し、環境整備を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同生活の中で家族として協力し合って過ごせるよう職員も一人ひとりの力を見極めた支援を心掛けている。		